

特別養護老人ホームにおけるポジショニングの実施率の向上

施設名 特別養護老人ホーム ケアポート板橋 ・ 部署 特養部門、看護部門
 サークル名 ケアポジション ・ 発表者 介護職員 おおた ひろし 太田 博

1. はじめに

当施設は東京都板橋区に位置し、特別養護老人ホーム(107床)、ショートステイ(15床)計122床を有し(4フロア)平均介護度4.1の施設である。「ケアポジション」は特養と看護の中から選出されたTQM委員により構成。

2. テーマ選定理由

日本の高齢化率は、介護保険制度が施行された2000から2020年のわずか20年間で、17.4%→28.9%と約10%上昇しています。それに伴い、要介護者認定者数も、218万人→644万人と約3倍増加しました。

特別養護老人ホームにおける入居者の平均介護度は、3.47→3.95と約0.5上昇し、重度化傾向です。「介護の専門性」を考えた際、特別養護老人ホームで働く職員には、「重度化させない介護」が、増々求められる時代になります。

「重度化させない介護」の一つに「拘縮ケア」があります。

拘縮(関節拘縮)とは、寝たきりによって筋肉が縮んだり、病気によって身体の動きが制限されたりすることで、関節が動かしくくなる状態の事です。現在、拘縮ケアの基本とされているのは、「関節可動域の訓練」です。

しかし、関節を無理に動かしても身体はゆるみません。むしろ、筋肉の緊張が強まるので、拘縮が進みます。本当に効果のある拘縮ケアとは、「抗重力筋の対策」=筋肉の緊張がゆるむような「正しい姿勢・ポジショニング」です。つまり、「拘縮ケア」=「正しい姿勢・ポジショニング」という事です。

正しいポジショニングを実施する事で、「重度化させない介護」を提供できると考え、今回のテーマに決定しました。

理念 ケアポート板橋は、ご利用者の尊厳を大切にした質の高いチームケアを提供することでその人らしい生活を支援し、地域の要となれる多機能施設を目指します

3. テーマの選定

評価点	ウエイト		施設理念 取り組みたい テーマ	評価項目	ウエイト付け						評価点	総合点
	×1	CSの向上			×2			×1				
					改善の要求度			解決可能				
	業務改善の向上	サービスの向上			利用者ニーズ	部門目標	緊急度	重要度	期間内終了	データの取りやすさ		
10	○	○	ポジショニングの実施	○	○	○	○	△	△	46	56	
10	○	○	口腔ケアの実施	△	○	○	○	△	△	42	52	
10	○	○	フットケアの充実	○	○	△	△	△	○	40	50	
10	○	○	事故件数の低減	○	○	○	○	×	△	44	54	

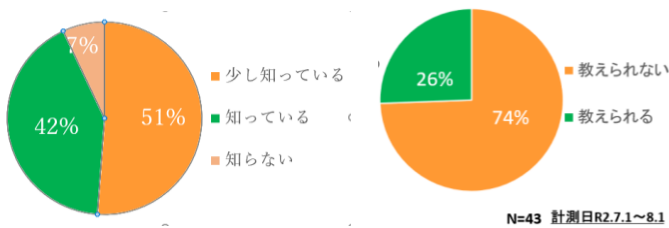
評価点 O5点△3点×1点

4. 活動計画

なぜ	何を	誰が	いつまで												どう	前回の反省と取り組み
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月				
真実を調べる	現状把握	太田	●●●●●			●●●●●			●●●●●			7月1日~8月1日	グラフ	統計的にデータ化しやすい情報を集める		
なぜ悪いのか	要因解析	中井	●●●●●			●●●●●			●●●●●			8月10日~9月1日	特性要因図	孫骨までお振り下げていく		
どうしたら良いか	対策	根岸江口	●●●●●			●●●●●			●●●●●			9月1日~11月14日	チェックシート	対策の実施期間と現状把握の期間が同じになる様時間を確保する		
持続できるか	効果確認	飯田	●●●●●			●●●●●			●●●●●			11月14日~11月28日	グラフ	水平展開までも持つていく		
標準化	管理の定着	佐山	●●●●●			●●●●●			●●●●●			11月14日~11月28日	チェックシート	管理の定着や、標準化がなかなか浸透しづらいので確実に伝えるようにする		
	反省と今後の取り組み	綿島	●●●●●			●●●●●			●●●●●			11月14日~11月28日	フレイションミーティング等	前回の反省を再確認して活かしていく		

5.現状把握

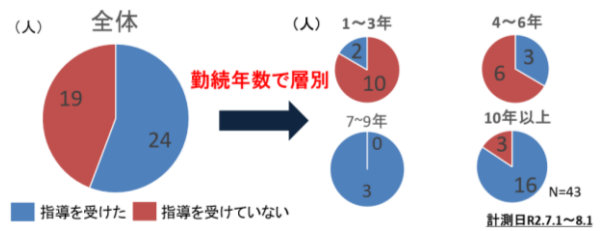
ポジショニングを知っている職員の割合



ポジショニングについて

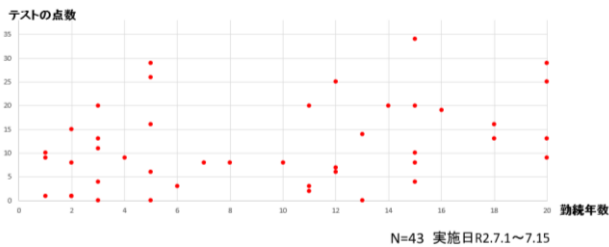
多少は知っているが教えられる程ではない

職員の勤続年数とポジショニングの教育の有無



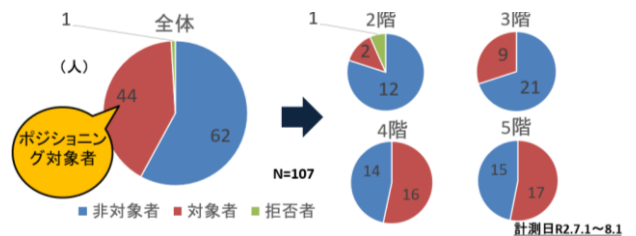
勤続年数7年前後で教育の有無に差があり

勤続年数とポジショニング理解度の相関関係



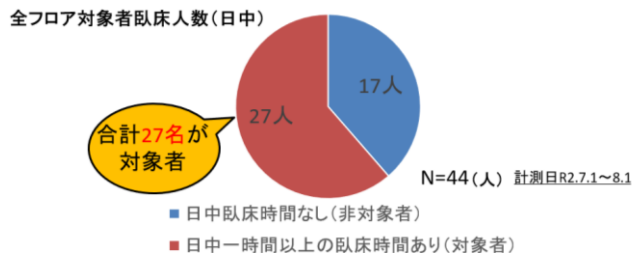
勤続年数と知識に正の相関関係なし

ポジショニングが必要なご利用者の割合



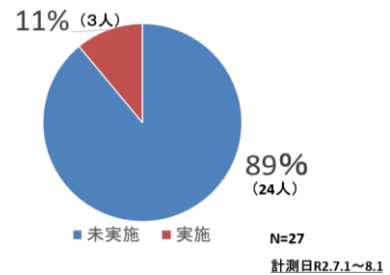
全ご利用者107名中 44 名がポジショニング必要

日中臥床されているご利用者数(ポジショニング対象者)



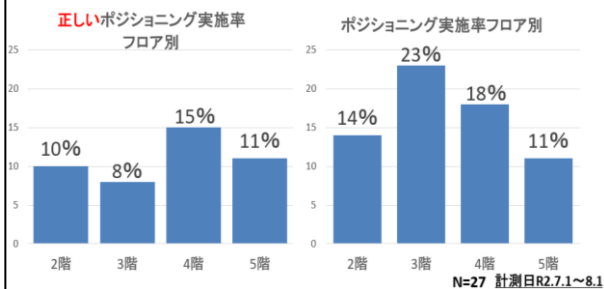
ポジショニング実施対象者で日中臥床されている方 27 名

ポジショニング実施率(全フロア)



正しいポジショニング実施率は 11%

ポジショニング実施率(フロア別)



フロア毎でのポジショニング実施率に

大きな差異見られず

正しいポジショニングを行う為に掛かる時間

	ポジショニングに掛かった時間(A職員)	ポジショニングに掛かった時間(B職員)	ポジショニングに掛かった時間(C職員)
正しく行っている職員	4分15秒	3分48秒	4分10秒
正しく行えていない職員	1分32秒	1分10秒	1分52秒

正しくポジショニングを行う方が

2~3分ほど多くの時間が掛かる

6.目標設定

何を	正しいポジショニング実施率を (日中、臥床されている対象者 27人に対して)
いつまでに	令和2年 11月末までに
どうする	39名⇒0名とする

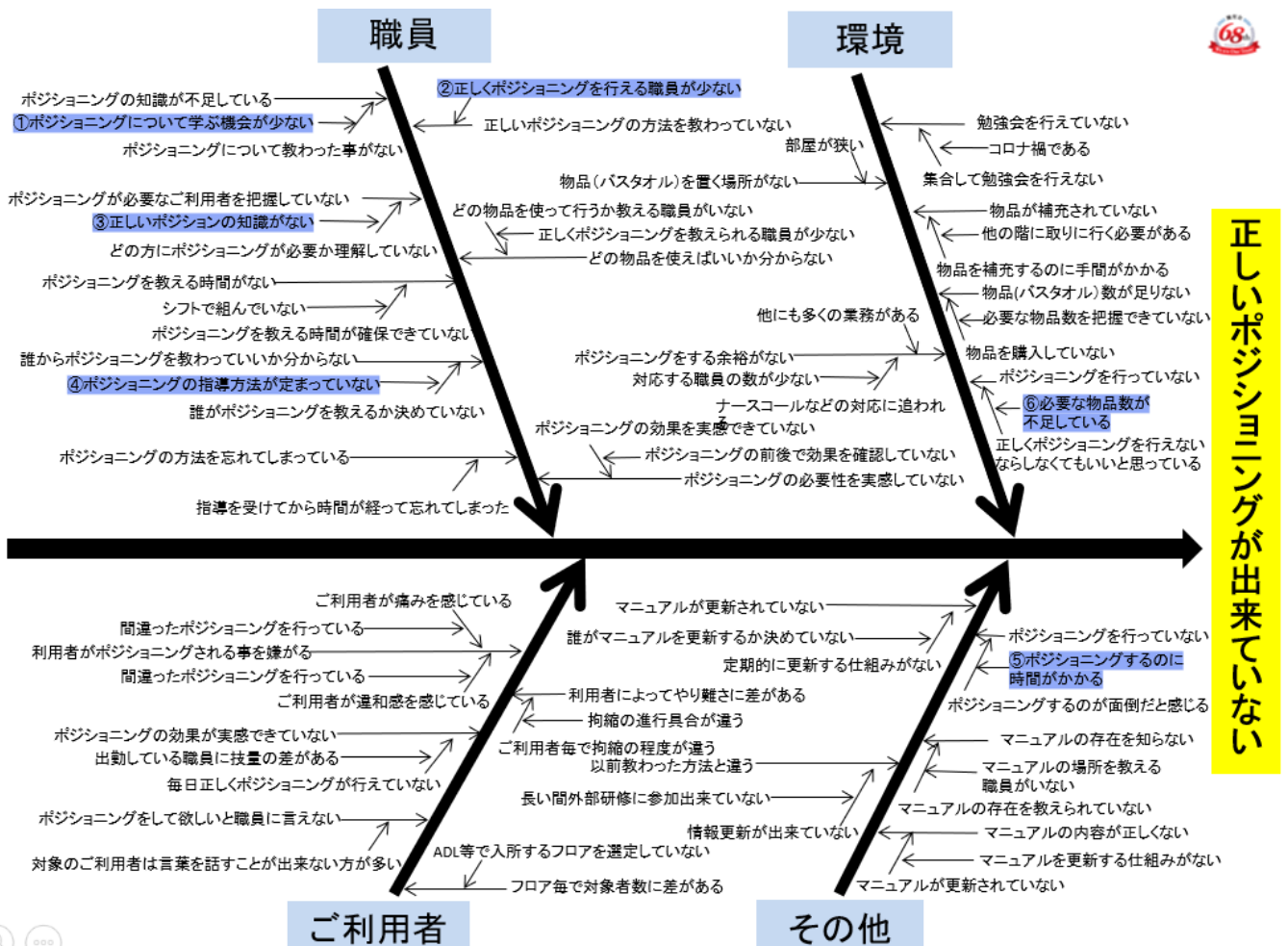
根拠 ポジショニングは毎日継続的に、正しく行う事で効果があり、意味があるものとなる。

正しいポジショニングを実施するには、時間が掛かる。
(現状把握より)
人員配置が多い時間は日中である為、その時間に実施する事で、100%実施できるのではないかと考えた。

チェック方法

チェック表を基に、ランダムサンプリングにて実施

7.要因解析



要因解析まとめ

- ① ポジショニングについて学ぶ機会が少ない
- ② 正しくポジショニングを行える職員が少ない
- ③ 正しいポジショニングの知識がない
- ④ ポジショニングの指導方法が定まっていない
- ⑤ ポジショニングするのに時間がかかる
- ⑥ 必要な物品数(バスタオルの枚数)が不足している

※ポジショニングを行う際の物品

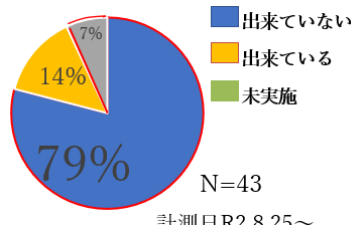
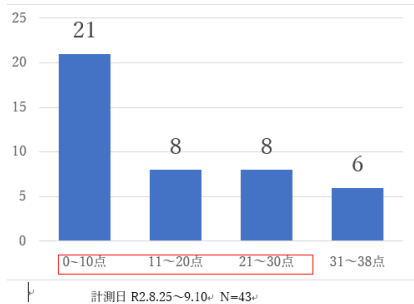
バスタオルを使用

(理由)

- ・保管場所の問題
- ・ご利用者の状態の変化に対応できる
- ・衛生面の問題から

8. 重要要因検証

6 点の重要要因を検証した結果、4 つの重要要因が真の要因と判定。

	重要要因	検証	結果	判定
①	ポジショニングについて学ぶ機会が少ない	ポジショニングの勉強会開催回数を調査	ポジショニングに関する勉強会を振り返ると 1回 しか行われていなかった	真の要因
②	正しいポジショニングを行える職員が少ない	日中の臥床時ポジショニングを行えているかチェックを行う(チェック表をもとにランダムサンプリングにて実施)	43 人中 37 人 86% の職員が正しくポジショニングを行えていない 	真の要因
③	正しいポジショニングの知識がない	ポジショニングの理解度を図る為筆記テストの実施	43 名中 37 名 の職員が 38 点満点中、 30 点以下 理解できている状況ではない 	真の要因
④	ポジショニングの指導方法が定まっていない	正しく指導を行える職員がいるかどうか調査	正しく指導を行える職員は 43 名中 2 名 であった	真の要因
⑤	ポジショニングするのに時間が掛かる(バスタオルを使用)	ポジショニングに掛かる時間を計測 使用しているバスタオルの枚数を調査	正しくポジショニングを行うと 4 分以上 かかる(現状把握より) 正しく行くと時間が掛かり、時間を短縮する事は出来ない 20 枚(ご利用者 1 人当たりの最大使用枚数)	真の要因ではない
⑥	必要な物品(バスタオルの枚数)が不足している	必要な物品(バスタオルの枚数)を集計 一番多く物品を使用しているご利用者の使用枚数 20 枚を基準にして集計	330 枚(施設にあるバスタオルの枚数) 880 枚(必要枚数)22 名×44名 550 枚不足 ※ご利用者に対して、毎日、バスタオルを 20 枚確実に用意物品があれば、ポジショニングが実施されるか否か一週間調査 → 5 日ポジショニング未実施 がありバスタオルが足りていても、実施されない事がある よって 物品は影響しない	真の要因ではない

9.対策の立案

(○5点 △3点 ×1点)

重要要因	一次対策	二次対策	三次対策	効果	コスト	時間	点数	採否
① ポジショニングについて学ぶ機会が少ない	ポジショニングについて学ぶ機会を増やす	定期的に勉強会を行う	① 半年に1度勉強会を行う	○	○	△	13	採
② 正しくポジショニングを行える職員が少ない	正しくポジショニングを行える職員を増やす	正しいポジショニング方法を学ぶ	② 外部研修のフィードバックを行う	○	○	△	13	採
③ 正しいポジショニングについて知識がない	正しいポジショニングの知識をつける	専門家から学ぶ	③ 外部研修に参加する	○	△	△	11	採
		マニュアルを配布する	④ マニュアルの見直し及び作成を行う	○	○	△	13	採
④ ポジショニングの指導方法が定まっていない	ポジショニングの指導方法を定める	ポジショニングの指導する人を統一する	⑤ 介護技術プロジェクトのメンバーが指導を行う	○	○	△	13	採

11点以上を採用とした為、①～⑤の対策案を採用

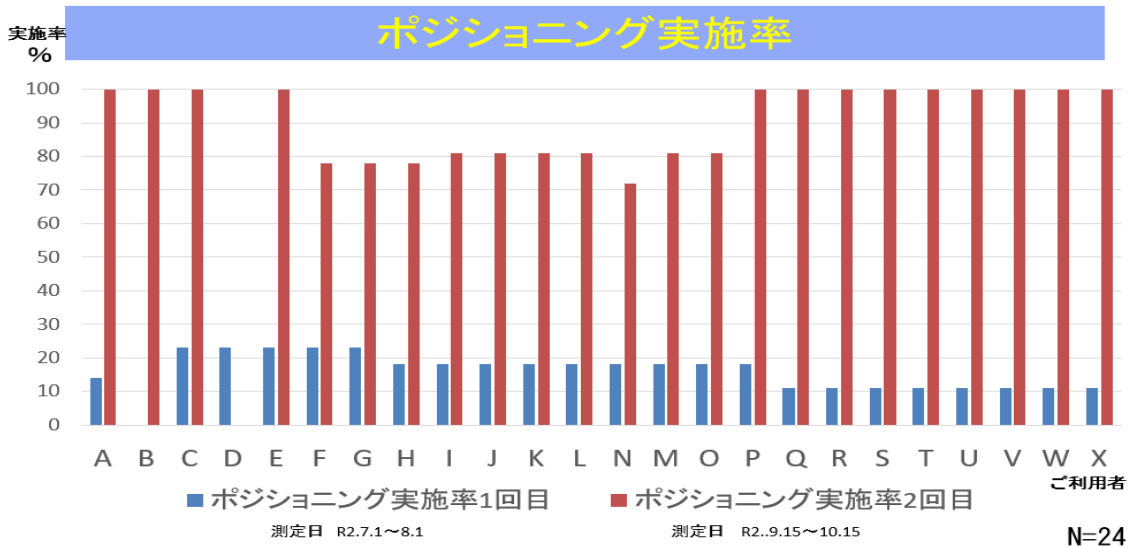
10.対策の実施

	誰が	いつ	何を	どこで	どうする
①	PJ 職員	10月末までに	ポジショニングの勉強会を	フロア毎に	実施する
②	介護職員	8月末までに	ポジショニングの研修内容を	施設内で	共有する
③	PJ 職員	8月末までに	ポジショニングの研修を	外部で	参加する
④	PJ 職員	10月末までに	ポジショニングのマニュアルを	施設内で	見直し,作成する
⑤	PJ 職員	10月末までに	ポジショニングの勉強会を	フロア毎に	実施する

※PJ・・・介護技術プロジェクトメンバー

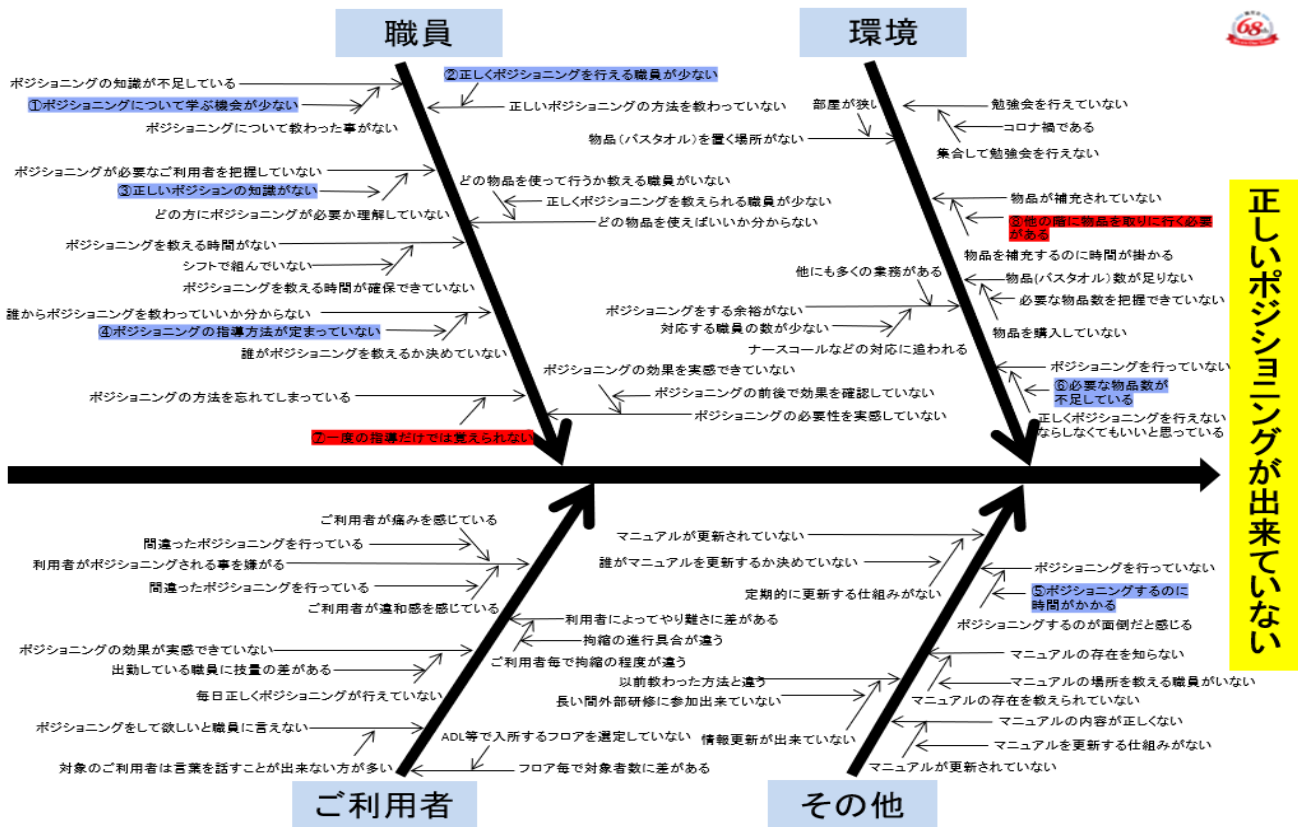
11. 中間点検

目標達成率は86%であり、目標には、14%及ばず。再度、要因解析、要因検証、対策を立案。



100%にする目標には及ばず目標達成率は86%

12. 要因解析(追加)



追加要因解析のまとめ

- ① 一度の指導だけでは覚えられない
- ② 他の階に物品を取りに行く必要がある(その場に物品がないから行えない)

13. 要因検証(追加)

	重要要因	検証	結果	判定
⑦	一度の指導だけでは覚えられない	指導を受けた回数を調査	全職員1回の指導だけであった	○
⑧	他の階に物品を取りに行く必要がある(その場に行かないから行えない)	物品の保管場所を調査	物品(バスタオル)は週2回洗濯されており、洗濯後は洗濯室にて保管されていた	○

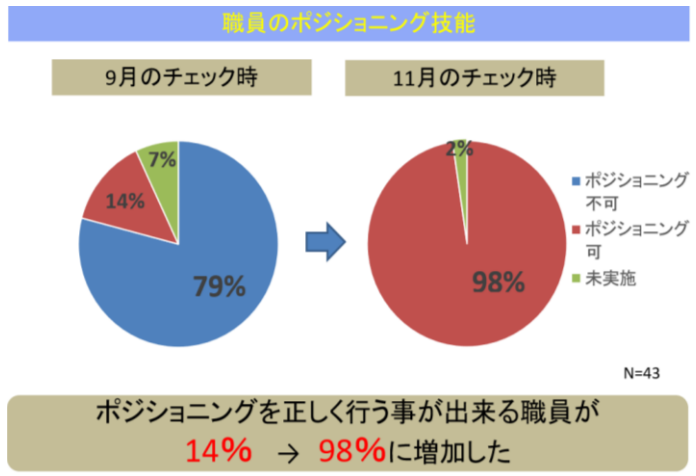
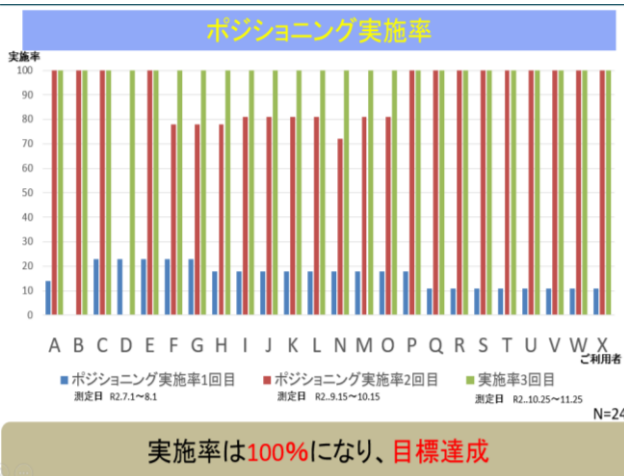
14. 追加対策

05点 Δ3点 ×1点

重要要因	一次対策	二次対策	三次対策	効果	コスト	時間	採
⑦ 一度の指導だけでは覚えられない	繰り返し学習できる	好きな時間に好きなだけ学習できる	⑥動画マニュアルを作成	○	○	Δ	13
⑧ 他の階に物品を取りに行く必要がある(その場に行かないから行えない)	物品を補充しなくてもいい	その場に物品がある	⑦利用者毎に、ポジショニング用の道具を作成	○	○	Δ	13

15. 効果の確認

追加対策を行った結果、ポジショニング実施率は100%になり、目標達成。合わせて職員の技術も向上。



16. 波及効果

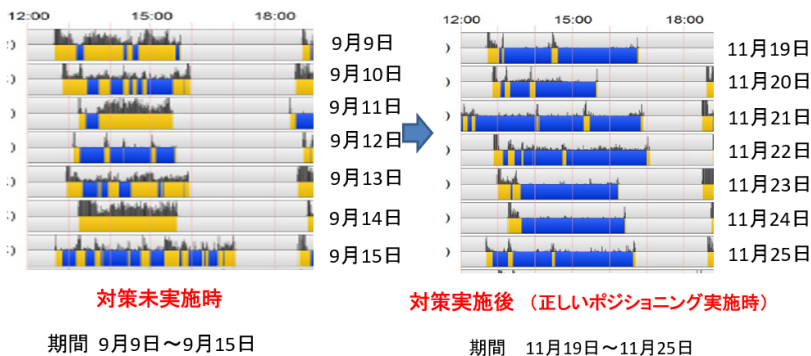
正しくポジショニングを行うと深く眠れることが分かった。

黄色=眠りが浅い、眠れていない 青色=深く眠れている

(眠りスキャンという機械を導入しており、それにより眠りの質を測定できる)

①睡眠値が黄色の覚醒状態から、青の睡眠状態の割合が増えた

ご利用者S様 臥床時の眠りscanのデータを比較



興味を持った中央法規出版社の記者が、施設内発表会に参加

買うべきバスタオルの枚数
550枚 × 500円(1枚) = 275,000円
ご家族寄付や段ボールを使用する事で
必要なバスタオルの枚数は430枚になり
430枚 × 500円(1枚) = 215,000円
→ 60,000円の経費削減

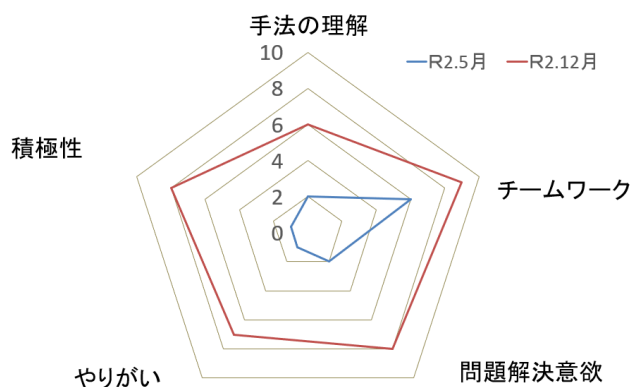
17.水平展開



ショートステイご利用者のご家族に写真等をお渡し、ポジショニングの仕方を説明させて頂く事で、
施設で行っているポジショニングを在宅でも行って頂けるよう水平展開

18.無形効果

ポジショニングに対して拒否があったご利用者が、正しく行う事で、ポジショニングさせて下さる様になり、やりがいに繋がった。



19.標準化と管理の定着

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どのように
標準化1	ポジショニングの指導方法を	指導方法を統一する為	PI職員	半年に1回	会議室	確認する
教育	ポジショニング方法を	正しくポジショニングを行う為	教育委員	半年に1回 (4月10月)	会議室	勉強会を行う
管理	ポジショニング実施率を	実施率が低下しない様に	各階リーダー	月に1回	各フロア	ランダムチェックする

20.反省と今後の課題

	手順	良かった点	悪かった点	今後の進め方
P	テーマの選定	ご利用者の為にやりたい事をテーマにする事ができた	テーマ選定に時間がかかった	今後にご利用者の為に改善できるテーマを選定する
	現状把握目標の設定	データ取りの目的を明確化しデータを取る事が出来た	どういったデータを集めるかの選定に時間を要した	データ取りの選定に要する時間を短縮できるようにする
	活動計画作成	役割を明確にして行う事ができた	計画と実施に差が出てしまった	計画通り実行できるようにしていく
D	要因の解析	チームで意見を出し合って解析できた	要因解析に時間がかかった	孫骨まで深く掘り下げて解析をする
C	対策の検討と実施	コロナ禍でも行う事が出来た	実施期間が短くなってしまった	よりアイデアに富んだ対策を実施する
	効果の確認	目標を達成できた	継続的に効果を確認していっていない	継続して行えていないシーティングについても実施していく
A	標準化と管理の定着	マニュアル動画を作成する事で繰り返し学べる環境を整えることができた	定着に関して定期的にチェックを行っていない	今後も継続していけるように役割を明確化し行っていく